

若年女子における身体の形態変化(左右差)と衣服設計上の問題点
—1978年と1998年との比較—

坂倉園江 ○原田妙子* 山下知子* 吉田真理子*

(*名古屋女子大短大)

【目的】 着衣基体としての体型研究や被服製作の授業を通して、近年富みに若い女性の体型の左右差、ねじれなど姿勢の悪さを痛感する。通常、体型研究は、正常体で左右が対称であることを前提とし、主として右半身を計測する。また、既製衣料も同様、左右対称に作られている。着心地の良い衣服設計を行うために必須とされる身体形状について、左右差の実態を明らかにした。

【方法】 被験者は 18・19 歳の若年女子であり、ナチュラルなブラジャー、ショーツの上に競泳用水着を着用し、胴囲に 2cm 幅のインサイトベルトを巻き、静立時の正面、右側面、後面、左側面の 4 方向の体型写真を撮影した。解析に用いたデータは、1/5 大に正確に引き伸ばした体型写真の計測値および撮影時に採取した身体計測値である。

【結果】 1998年次学生について見ると、高径における胴囲高では左右に差がある人は約 2/3 であり、肩峰点高では更に多く約 5/6 の人に差が認められた。また肩傾斜角度でも同様の傾向を示し、右肩の高い人が多い。正面写真において正中線を通る基準線からの左右の差については、胴囲幅では約 2/3 の人が差を示し、更に足首の位置では約 5/6 の人に左右差が認められ、体が傾いている人がかなり見られる。